

研究主題 **新たな教育課題（ICTの活用）に対応するための教頭としての関わり**

提言者 西臼杵支部 高千穂町立田原小学校 宮本 英一郎

1 主題設定の理由

教育の情報化を推進していくためには、教員のICT活用能力の向上のみならず、管理職のリーダーシップのもとにICTを学校全体で活用していくという学校経営が欠かせない。そのためには校長、副校長、教頭などの管理職が教育の情報化の意義や現状をきちんと理解し、自校の課題を踏まえたICT活用のビジョンと実施プランを全教員に示す必要がある。

そこで、教頭として、新たな教育課題（ICTの活用）に対応するための関わりを模索することとした。

2 研究のねらい

新たな教育課題（ICTの活用）に対応するためにはどのような手立てが有効か講じるとともに教頭としての関わり方を明らかにする。

3 研究の概要と成果

(1) ICT活用の課題把握

職員に、活用する際の課題を確認した。

- 自分の活用能力に自信がない
- 活用方法が分からない
- 誰に相談すればよいか不安
- モデルケースを知りたい
- 保護者への啓発が必要

ICTを活用する際の課題は、① 授業、②

授業外、③ 保護者に関するもので、教頭としてこれらの課題解決に向けて関わることとした。

(2) 授業への活用に向けた関わり

日常の授業においてICTの活用を行うためには、指導方法を研修する必要がある。

そこで、授業におけるICT活用力の向上を図るため「校内研修リーダー」（研究主任）の育成を目指した。その際、教頭として「ミドルリ

ーダーの育成」を意識した指導・助言を行った。

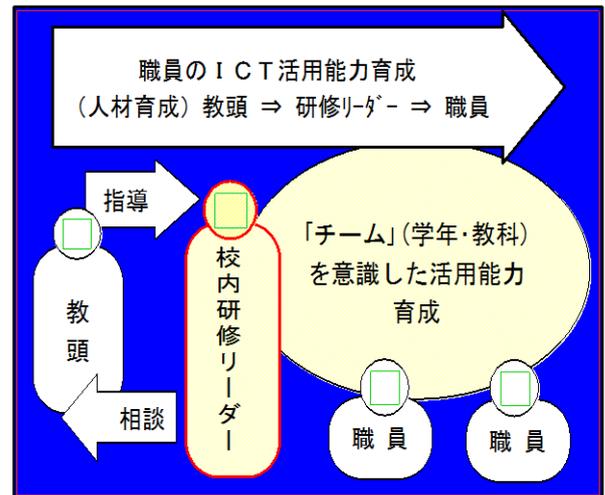


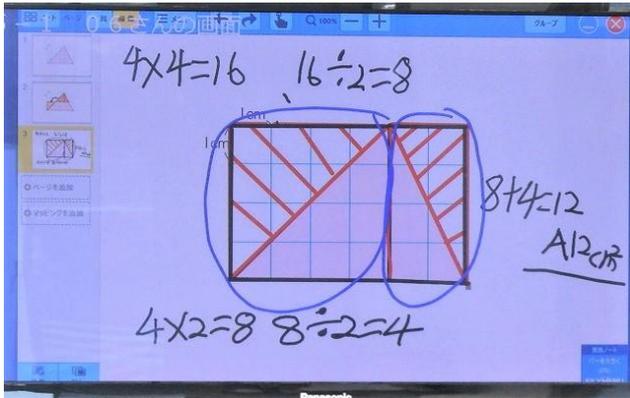
図1 校内研修リーダーとの関わりイメージ

ICTを活用した「わかる授業」の実現のため、校内研修リーダーに積極的に関わり、一人一人の教員にICT活用指導力の向上の必要性を理解させ、職員の「自分の活用能力に自信がない」という課題に対応するために資料の提供や助言などをおして校内研修の充実に努めた。

また、「活用方法が分からない」という課題に対応するため、「導入」「展開」「終末」場面でのICT活用イメージを作成し、実践するよう助言した。



図2 授業でのICT活用イメージ



(写真1 授業でのICT活用事例)

校内研修リーダーを中心に、ICTを活用した授業方法を研修した成果として、職員の活用に対する不安の低下とともに、活用技能の向上が見られた。

(3) 授業外の活用に向けた関わり

ICTの活用能力を高めるためには、授業以外での活用が不可欠である。そこで、日常の校務においてもICTを積極的に活用できるよう、PCを活用した職員会や「C4th」を活用した校内連絡を推進した。その際、「誰に相談すればよいか不安」という課題に対応するため、「情報化推進リーダー」（教務主任）を積極的に活用させた。

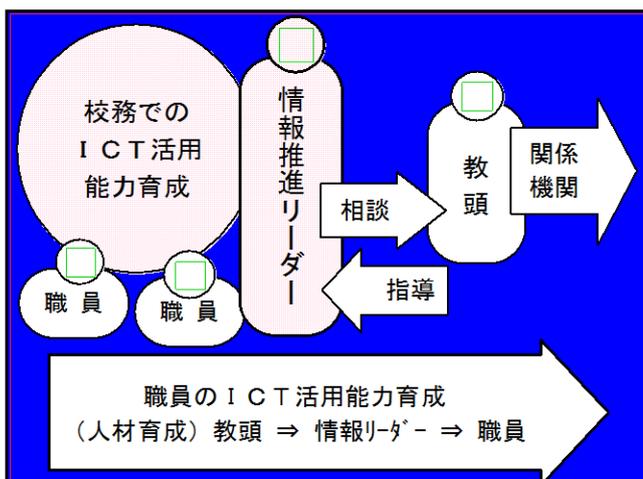


図3 情報推進リーダーとの関わりイメージ

情報化推進リーダーをミドルリーダーとして育成する意図から、校内の相談対応の中心にしたが、校外の関係機関への対応は、教頭が行い推進リーダーに情報を伝えた。

また、校外のICTサポーターの活用を積極的に行うことで、職員の活用への不安を軽減できるよう努めた。



(写真2 ICTの活用研修のようす)

さらに、「活用のモデルケースを知りたい」という課題を解決するために、校外の研修会に参加できるよう校長に具申し、参加できるようにした。その結果、ICT活用に対する職員の不安が解消されつつある。

(4) 保護者への関わり

ICTを活用した活動への理解を図るため授業での活用目的や家庭での取組等について、参観日や通信等で説明を行った。

その結果、保護者の理解が高まり、学校活動への協力がより高まった。

4 今後の課題

「授業での活用」を中心としたICTの活用に関する取組については、今後の実践において、より具体的な手立てを講じることが課題である。校長の指導を受けながら、教頭として関わりたい。



(写真3 ICTを活用した授業例)